

# 戦禍の人々に思いを寄せて

ウクライナ国立バレエ団が日本で公演  
本市を皮切りに各地でパフォーマンスを届けています



7月15日にベイシア文化ホールで実施された「キエフ・バレエ・ガラ2022」。この公演に出演するため来日したウクライナ国立バレエ団を、本市では公演2週間前に受け入れました。ロシアのウクライナ

侵攻の影響で一時は日本での公演は開催が難しいと考えられていましたが、ダンサーたちの自分たちの芸術を届けたい、という思いから公演が実現しました。



## 心の痛み表現の力で伝えたい

市役所を訪れた同団の芸術監督、エレナ・フィリピエワさんは次のとおりインタビューに回答。そこには自分たちの芸術への誇りと平和への思いがありました。

### Q. 公演の見どころや特徴を教えてください。

A. 最初に、ウクライナの伝統舞踊「ゴバック」を踊ります。ゴバックはウクライナの民族性が分かる、ウクライナ人にとって大事な作品です。そして今回の日本ツアーでは「ひまわり」というオリジナル作品をやります。ウクライナ人は非常にあたたかい民族。ヒマワリのように温かい心を持っていることを日本の皆さんに分かってほしいと思います。



ゴバック



ひまわり

### Q. 戦時下での母国や芸術への思いを教えてください。

A. 戦争が始まったとき、私は何カ月かキエフにいました。劇場は閉まっていた。もちろん、舞台上に立つこともできませんでした。世界の人にいちばん知ってほしいのは、今ウクライナで戦争が起きていること。バレエという芸術で、言葉で伝えるのではなく体で表現し、世界中の人たちにウクライナ人の心の痛みを分かってほしいです。私たちは、もちろん戦いはできません。芸術の力を借りて、世界平和を祈っています。世界中の人たちにウクライナをサポートしてもらい本当に感謝しています。

### Q. 表現で日本人たちにも思いを伝えたいという気持ちがあったのでしょうか。

A. テレビではいろいろな報道がされています。しかし、事実はなかなか報道されません。ウクライナ人の本当の心の痛みを、私たちの表現の力で分かってほしい。それが私たちの大きな仕事です。

# 芸術で後世へ伝える



市民ミュージカル

市民ミュージカル総監督

新陽一さん

市民ミュージカルの総監督を務める。前橋空襲3部作の第1作「灰になった街」は来年8月5日(土)、6日(日)に昌賢学園まえばしホールで上演予定。

来年上演予定の市民ミュージカル「灰になった街」。同作は前橋空襲をテーマにした3部作の第1作で、平成20年に前橋女子高の音楽部が初演、平成27年にはオーディションで選ばれた市民などをキャストに起用し、市民ミュージカルとして上演しています。この作品の脚本・演出を手掛けるのが新陽一さんです。前橋女子高の音楽部を指導していた新さんは、オリジナルミュージカルを作成するに当たり地元で根差した話にした

いとテーマを探したところ、前橋空襲を知ったそう。「県外出身のため前橋空襲のことは知りませんでした。調べると、日本の地方都市としてはかなり大きな被害であったことや前橋高等女学校の生徒と大きな関わりがあることが分かりました。生徒が体育館で風船爆弾を作っていたことや、現在のJR新前橋駅近くにあった理研工業前橋工場に学徒動員で働きに行き軍用機の部品を作っていたことなど、調べて分かったことを、作品に盛り込んでいます」

制作には4、5年がかかったといひます。

「主な資料は前橋女子高校60年史。そこに書かれていた満州の2人の留学生の存在から第2作「我愛你」が、華道草月流家元の娘が在籍した史実から第3作「鎮魂華」が生まれました。また、戦争の語り部から話を聞いたりもして、これは後世に絶対に伝えていかなければいけないと感じました」

前橋空襲3部作を前橋の文化として続けていきたいと話す新さん。「市民ミュージカルとして市民が演じることで追体験ができると考えています。追体験するには本を読んだり映画を見たり、資料館を訪れたりといういろいろな手段がありますが、ミュージカルは興味がない人や若い人にも伝わりやすいと思います。実際に戦争の記憶がある人はいちばん若い人で80代半ば。あと10年もしたら戦争体験者は少なくなってしまう。前橋が焼け野原になり、多くの人が亡くなったことを知っている人はほとんどいないと思います。今、前橋駅南の商業施設がある場所は、



過去に上演した市民ミュージカルでのひと幕

昔軍需工場であったことも、知らない人が多いと思います。だから、キャストには実際にこういう悲劇があったことを私たちが現代の人に伝えるんだ、という意識を持ってもらいたい。そして、観客には、今日の平和は悲惨な出来事の犠牲の上にあるということを知ってほしいと思います。21世紀に世界で大きな戦争が起きるとは誰も思わなかったように、平和はみんなを守っていかないと続かないですからね」

## ウクライナ避難民支援に協力を

現在、本市では27人のウクライナからの避難民を受け入れていています。避難民支援募金には7月20日時点で、募金箱に50万5,259円、ふるさと納税に40万円、企業などから29万8千454円の寄付が集まりました。寄付金は避難民への生活支援に活用しています。募金箱は市内16カ所(市役所、各支所・市民サービスセンター)へ設置しているほか、ふるさと納税でも寄付を受け付けています。協力をお願いします。

固政策推進課 ☎027・898・6003

ふるさと納税について  
詳しくはこちら



世界では未ださまざまな地域の人々が紛争に苦しみ、時に命を落としています。これはかつて本市でも起きた出来事。私たちは伝えていかなければなりません。悲惨な出来事を二度と繰り返さないために。